

授業科目 医療福祉サービス評価法Ⅱ

【担当教員名】 一 戸 真 子	対象学年	4	対象学科	社会
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	30

<概要>

ヘルスケアサービスは原則として利用者中心に提供されるべきであるということはいままでもない。しかしながら、ヘルスケアサービス提供者にとってもケアの提供においては無理のない現実的な環境が提供されていなければならない。開かれた質の高いヘルスケアサービスにはどのような視点が重要であるかについて理解を深める。具体的には、

- 1) 「評価すること」、「第三者」という存在の意義を理解する、
- 2) 「質」を測定するということの意義を理解する、
- 3) 利用者中心のヘルスケアサービスはどうあるべきかについて検討する。

以上のことを踏まえ、医療福祉サービス評価法Ⅱでは「福祉サービス評価法」について学習することを本講義の目標とする。

<学習目標>

1. 福祉を取り巻く環境を理解する。
2. 福祉サービスにはどのようなものがあるかについて理解する。
3. 福祉サービスを評価することにどのような意味があるかを理解する。
4. 福祉サービス評価方法について理解する。
5. 福祉サービス評価尺度について検討する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	福祉サービス評価の開始		講義
2	措置からサービスへ		講義
3	介護保険制度と福祉サービス評価		講義
4	福祉サービス利用者ごとの特徴－高齢者、障害者、児童、生活保護		講義
5	施設サービス評価と在宅サービス評価		講義
6	厚生労働省と東京都の取り組み		講義
7	東京都福祉サービス評価推進機構		講義
8	福祉サービス第三者評価方法		講義
9	事業評価プロフィール		講義
10	訪問調査		講義
11	評価領域と評価者		講義
12	利用者調査と家族調査		講義
13	福祉サービス評価方法についてのまとめ		講義とディスカッション
14	医療サービス評価と福祉サービス評価の比較		講義とディスカッション
15	利用者中心のヘルスケアサービス評価についての検討		講義とディスカッション

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	特に指定しない。			
参考書	随時紹介する。			
その他の資料	必要に応じて授業内に配布する。			

【評価方法】 ①出席、②授業内レポートや積極的な参加度、③期末試験の成績の総合的評価	【履修上の留意点】 本科目に関する内容は現在動きが激しい分野であるので、政策や医療・福祉をめぐる社会動向を把握するように心がけること。
---	--